



今日のクラシック音楽界きっての人気を誇る国際的ヴィルトゥオーゾ



ギル・シジャハム
ヴァイオリン・リサイタル

ウォルトン：ソナタ

J.S.バッハ：無伴奏パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

ボルコム：新作(未定)

ベートーヴェン：ソナタ 第9番 イ長調 op.47 「クロイツェル」



ピアノ：江口 玲

©Christian Steiner

2013年 3/1 金 PM6:45

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥8,000 A ¥7,000 B ¥6,000
C ¥5,000 D ¥4,000 学生 ¥2,500 (税込)

学生券 ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

■出演者、プログラム内容等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
■未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

主催 / 中京テレビ放送 企画・運営 / 中京テレビ事業

お問合せ お申込み 中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM9:30~PM5:30 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索

座席表からお席をお選びいただけます!

5/26(土) 発売開始!
AM10:00~

チケット販売所
チケットぴあ (Pコード 164-536) 0570-02-9999
ローソンチケット (Lコード 48999) 0570-084-004
愛知芸術文化センターPG 052-972-0430
栄プレチケ92 052-953-0777
e+ (イープラス) eplus.jp
他 有名プレイガイド



清らかな空気に息づく音色 ～シャハムの王道バツハと新たな世界への挑戦～

毎年テーマを決めて音楽に取り組むシャハムが、12-13年シーズンのそれに定めたのが今回のプログラム“古典と現代の融合”。彼のバツハは、どこまでも遠く届くクリアな音で、作曲家に忠実ながらも、常に躍動し語りかけてくる。

そこへ、昨シーズンのテーマで掘り下げたウォルトンと、自身に捧げられたボルコムによる作品への出会いが加わり、理知と感情のバランスをとった、しかしどこか愛嬌もある、まさに彼の人柄そのものを描写したようなプログラムが誕生。さらに今回は旧知のパートナー江口玲の参加が決まり、二人の魅力が最大限に表れる古典作品クロイツェルをメインに置いた。止むことない挑戦と原点の良さを顧みる、シャハムが今最も伝えたいメッセージ。



ギル・シャハム (ヴァイオリン)

Gil Shaham (Violin)

ギル・シャハムは、今日のクラシック音楽界きっての人気を誇る国際的ヴィルトゥオーゾとして、世界中の著名なオーケストラや指揮者から引っ張りだこであるだけでなく、名だたる音楽祭の要となるリサイタルや室内楽コンサートへの出演依頼も多い。

2009/10年シーズンの「1930年代のヴァイオリン協奏曲」プロジェクトでは、バーバー、ベルク、プロコフィエフ、ストラヴィンスキー、ウォルトンという30年代に大きな影響を与えた作曲家による35曲の名曲を聴かせ、ドゥダメル指揮ロサンゼルス・フィル、ティルソン＝トーマス指揮ロンドン響、ロバートソン指揮ニューヨーク・フィル、ヤンソンス指揮バイエルン放送響などと共演した。

リサイタルも定期的に行ない、オール・バツハ・リサイタルのシリーズを開始。また、ヴァイオリニストの妻アデル・アントニー、ピアニストの妹オリ・シャハム、義兄の指揮者デイヴィッド・ロバートソンら、

家族で共演する機会にも恵まれている。

録音も数多く、グラミー賞、グランプリ・ドゥ・ディスク、ディアパゾン・ドール、グラモフォン誌のエディターズ・チョイスなど権威ある賞もたびたび受賞している。近年は自身のレーベル「カナリー・クラシックス」を立ち上げた。

1971年イリノイ州のシャンペーン・アーバナ生まれ。'81年、エルサレム響およびイスラエル・フィルとの共演でデビュー。'82年、イスラエルのクレアモント・コンクールで優勝した後、ジュリアード音楽院の奨学生となり、ドロシー・ディレイおよびヒョー・カンに師事。また、コロンビア大学でも学んだ。'90年にエイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラントを受賞、'08年にはエイヴリー・フィッシャー賞を受賞した。

使用楽器は1699年製ストラディヴァリウス「ポリニャック伯爵夫人」。妻アデル・アントニーと2人の子供たちと共にニューヨークに在住。



江口 玲 (ピアノ)

Akira Eguchi (piano)

「非凡なる芸術性、円熟、知性」(ニューヨーク・タイムズ紙)と評される江口玲はソリスト、室内楽奏者、チェンバロ奏者、そして伴奏者として世界中の聴衆と批評家たちを魅了してきた。

ニューヨークタイムズ紙からは「流暢かつ清廉なるピアニスト」と賞賛され、これまでにカーネギーホール、92丁目のYMHA、ワシントンDCのケネディーセンター、ウィーンのみジークフェライン、ロンドンのバービカンセンター、パリのシャンゼリゼ劇場等でも演奏している。その抜きんでた演奏は、ホワイトハウスにて故アイザック・スターン氏によりクリントン大統領に紹介され、また東京の浜離宮朝日ホールでの演奏会には天皇皇后両陛下もご臨席された。アメリカ、アジア、ヨーロッパ諸国等、今まで演奏で訪れた国は25カ国に及ぶ。

作曲家としてはモーツァルトのヴァイオリン協奏曲のカデンツァをヴァイオリンの竹澤恭子女史に依頼され、宮崎音楽祭で演奏されたほか、チェリストの岩崎洸氏のためにもハイドンのチェロ協奏曲のカデンツァを書いている。また2003年11月には全音楽譜より自らの編曲によるラブソニー・イン・ブルーを含む「ガーシュイン ピアノ作品集」(江口玲編曲)が発売され、好評を得ている。

東京藝大附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、その後同校にて助手を務めた後、ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。ピアノをハーバート・ステッソン、外山準、金沢明子、伴奏法を故サミュエル・サンダース、作曲を佐藤眞、北村昭、物部一郎の各氏に師事。2011年5月までニューヨーク市立大学ブルックリン校にて教鞭を執る。2006年より洗足学園音楽大学大学院の客員教授を務めほか、2011年4月より東京藝術大学ピアノ科の准教授に就任。現在もニューヨークと日本を行き来して演奏活動を行っている。

オフィシャル・ウェブサイト www.akiraeguchi.com